

# 附属同窓会の思い出を綴る

東京学芸大学附属 竹早小学校同窓会

## も く じ

大正8年卒 -----	石 黒 ミ ナ -----	1
昭和2年卒 -----	今 井 繁 雄 -----	1
昭和3年卒 -----	藤 原 千 尋 -----	2
昭和6年卒 -----	加 納 晋 六 -----	2
	関 　 　 　 とも -----	3
昭和7年卒 -----	馬 場 義 文 -----	3
	工 藤 張 雄 -----	4
昭和8年卒 -----	内 藤 祐 次 -----	5
昭和13年卒 -----	工 藤 美 雪 -----	7
	清 水 愛 子 -----	8
昭和14年卒 -----	中 村 倭 文 子 -----	9
昭和16年卒 -----	杉 本 敏 夫 -----	10
	坂 入 弘 一 -----	10
昭和18年卒 -----	近 藤 洋 一 -----	11
	渡 辺 　 　 　 鴻 -----	11
昭和21年卒 -----	小 山 豊 子 -----	12
昭和22年卒・32年卒 -----	永 山 道 子・阿 部 理 子 -----	13
昭和24年卒 -----	清 水 欣 子・神 宮 八 重 子 -----	13
昭和25年卒 -----	永 野 美 恵 子 -----	13
昭和26年卒 -----	黒 須 英 子 -----	14
昭和30年卒 -----	上 原 佳 子 -----	14
昭和32年卒 -----	鈴 木 了 衣 -----	15
昭和34年卒 -----	川 田 慶 子 -----	15
☆同窓会の記録 -----		16
あとがき -----		23

町の小学校から高等科に進学した「附属小学校」は高尚な感じがあった。

その第一は「校歌」があったこと。将来、異郷に住むことがあっても、校歌は同窓の友情を結ぶ絆となるであろうと感動しつつ覚えた。尊敬していた杉浦重剛が、道義を講じた「称好塾」が、かつてこの学校の構内にあったという話も誇らしかった。

高等科は大多数が女子師範の本校に進学するので、附属の同窓会にはごぶさたになりがちであるが、大正5年卒の大石隆子さんが、「附属の同窓会に行ったら、『教生の大石先生！』と声をかけられて、うれしくて!!」と言われたのは、つい先年のことであった。

大正8年卒の伊東祐基さんと、1回だけ同窓会会報を作った。東大前の喫茶店で打合せをし、私の勤務先の追分小学校の縁で比護印刷所で仕事をしてもらった。以後交友を続け、昭和19年夏、私が学童疎開にでかける前に、在郷軍人簡閲点呼で追分小学校に来られた伊東さんは、当時の貴重品、「虎屋のようかん」を渡して下さった。

竹早小学校同窓会の、現在のいきいきとした活動はまことにめざましく、当世に稀なもの。先人の愛校心の無形の支えを貴重とせずにはいられない。

昭和5、6年頃は、杉浦鉄若さん（明治40年卒、杉浦重剛先生の子息）が、2代目同窓会理事長として活躍しておられたが、昭和7年拓務省からアルゼンチンに赴任されることになり、同期の早川秋一さんを後任に推された。以来早川さんは、王子・小石川・四谷の各区長などの要職の激務のかたわら、40年の永きにわたって、同窓会のために重責を果たされた。

この頃同窓会総会は、本校講堂、小石川植物園などで行われたが、あるとき豊島園に会場が設けられたことがある。あいにく当日は小雨もよりの天候で、私は時間より早目に入園し、指定の広場に到着したが、役員の姿もなく、友人もいなかったため帰宅、伊東祐基理事（大正8年卒）に電話照会したところ、天候不良で取り止めの回答に接した。そこで、このような場合、役員が然るべき場所に立って連絡すべきではな

かろうかと要望、その熱意を買われて数日後、若年ながら理事に推薦したいとの報に接した。このとき同時に理事となったのが早川巨万子さん（現稲田、附属小学校出身、女子師範卒業後母校教諭に着任）であった。

当時職務分掌では、会計主任をト部（旧渡辺）たみ先生、編集主任に永堀（現柴山）千鶴子さんが当たられ、私もそのアシスタントとして図書館式カードの会員原簿を作成した。なお顧問格の長老として三宅しづ、野尻てつ両先生が君臨されていた。ト部会計はきわめて厳格で、会食費用なども緊縮政策をとられていた。

なお当時は、卒業時に納入する会費は一般4円、特別50銭（教職員退職せん別引当て）計4円50銭であり、一般会計は、主として年1回行われる名簿会報の費用に充当されたように記憶している。また総会は本校講堂のほか、九段の軍人会館（現九段会館）、茗溪会館なども利用され、戦時体制濃厚になるまで継続したように思う。

昭和3年卒

藤原千尋

昭和18年春の総会で、（S.7卒）工藤張雄、榎木寛方、（S.10卒）真山美保ら諸氏と会の運営に参加し、私等は「父帰る」という、真山さんシナリオ・演出の劇をやったことを覚えています。総会は大変盛大であったようで、諸氏の熱意は素晴らしい活躍をとめない、まことに見事でした。私は年長者として之に乗っただけのことです。

昭和6年卒

加納晋六

お手伝いしたのは昭和6年から10年頃までで、理事長は杉浦さんから早川さんでした。こまかい会務を取りしきっておられたのは、ト部タミ先生だったと思います。

当時の会合でよくお目にかかったのは、T.12卒衛藤行孝、S.2卒山本正躬、S.3卒藤原千尋、S.4卒斉藤正弘、S.4卒坂田昕生、S.5卒近藤泰子、S.6卒宇佐見とも、S.8卒加藤俊子の皆さんでした。

名簿、会報、総会の開催通知等の発送は夜までかかることもありましたが、結構楽しくやっていました。

総会はおおむね本校の講堂をしましたが、昭和3年か4年には在校生をまじえて、小石川の植物園で開催したことがあったように覚えています。時期はハッキリしません。この時の会報は、「幼稚園」が「幻稚園」となっていた誤植があったので、よく覚えているのです。

昭和6年卒

関 とも

昭和15年9月以降の日記から。

- 16.4.19 (土) 同窓会通知発送。昭6会から加納晋六さん、堀内亨一さん。
- 16.4.26 (土) 同窓会総会。収入 140円ほど。
- 17.1.17 (土) S.3 卒藤原千尋さん、S.7卒馬場義文さん、S.6卒小立泰さんの壮行会、附属小学校で。
- 18.5.26 (水) S.7 卒安永庸子さんのピアノ独奏会。四谷村山スタジオ。同窓会主催。
- 18.9.24 同窓会有志、田園教場へ。小池先生、S.3卒藤原、S.6卒八巻、S.7卒荒木、工藤、榎木、横谷(今井)、菅谷、竹村民三、竹村平二、S.8 卒大村、S.10卒真山、山下、S.11卒藤原、石森、S.13卒吉田、山本ら。山下淳さんのオルガンで唱歌をうたう。
- 18.9.28 (火) 海軍予備学生として入隊する榎木さんを東京駅に送る。見送る人、藤原、安永、竹村民三、工藤、石森、大村、北村、馬場ゆり香、真山、坪田、山下、吉田、北村さんなど。
- 18.10.30 (土) 出陣学徒壮行音楽会、四谷村山スタジオ。

昭和7年卒

馬 場 義 文

私が同窓会の理事として、お手伝いを始めたのは昭和11年頃からだと思います。早川理事長のもとで、今井繁雄(S.2)、藤原千尋(S.3)、斉藤正弘(S.4)、森博(S.4)、坂田昕生(S.4)、菊岡(永堀)貞子(S.4)、坂田美紀子(加藤槇子)(S.6)、

関（宇佐見）とも（S.6）、学校側からト部タミ、早川巨万子の皆さんと共に、一番若手の理事として働きました。

昭和12年同窓会の事業として初めての催しを九段の軍人会館で行いました。和田肇のジャズピアノ、映画「オーケストラの少女」のだしもので、千数百人の聴衆を集め極めて盛会で、その利益で母校に校旗を贈呈したように思います。この催しには、特にS.5年卒の故守屋弘理事が入場券の売りさばき、会の進行等に大活躍されました。

昭和15年頃、加藤槇子さんを主に、私がお手伝いして会報を発行しました。加藤さんの活躍で、M.33卒柳原白蓮（宮崎暁子）さんの原稿をいただき、また裏表紙に加藤さんのイラストによるナポリヤの広告をとることができ、その広告料で理事一同が天ぷらそばを食べ、ト部先生から大目玉を頂戴したのもなつかしい思い出です。

昭和15年頃からS.8卒故宇佐見徳衛君が理事に加わり、またS.14卒木村凱江、倉林一子の両嬢がお手伝いに加わりました。当時私は1週に1度は母校に顔を出し、ガリ版切りなどを同期の安永庸子さん等と手伝ったりして、私の青春の大部分を同窓会に費やしました。我が青春に悔無しの心境です。同窓会にも、どんどん若い人々がお手伝い下さるのを希望して筆をおきます。

昭和7年卒

工藤張雄

昭和17、18年は、戦争の波が旧制高校や大学にも及び、一つの学年が半年に短縮されることが多かった。私は浪人年数の関係もあって、自分の入隊よりも先に、後輩諸兄を出陣学徒として送ったことを、今も申し訳なく思っている。

昭和17年頃、S.7卒遠藤寛二の入隊後同期の榎木が入り、馬場義文の後を私が引き受けた。

私はユーレイ幹事にハガキを出し、実働できる人を推薦してもらい、五割近くが交替して新鮮な人事となった。そこで4つ位の事務グループに分け、それぞれ相談会や実行会を作ってもらった。上から命令という形をやめたが、みんな仲良く、自主的積極的に動き、喜びながら大きな仕事をどんどんやって行った。

昭和18年4月の総会半年前から、大学生の榎木・工藤は「オレたちは附属国民学校生」と称して、毎日母校に通っていた。2、3カ月前になると、中学生をはじめ男女

約80人が、毎週2、3回集まって準備に取り組んだ。頭が下がる思いだった。当日約1,000名を集めた総会が、会員の心を打ったのは当然である。

昭和8年卒

内藤 祐次

昭和18年10月2日

徴兵に関するニュース、新聞に。我も赤兵たる日、12月1日也と確定。生き死にの目的画然とし、我が行く手定まる。

同 10月21日

雨の神宮外苑にて、文科系、官、公、私立学徒の大群が父兄、理工科学徒、女子学生の見送りを受けて行進。

同 10月29日

神田区役所にて徴兵検査の結果、小生甲種合格。親不孝、両親家族が嘆くとも、我征かん。今は唯、君国を守り、我等が子孫がよりよき土台の上、我等が民族の理想を建設せんことを願うのみ。

同 10月末日

附属出身学徒壮行音楽会。村山スタジオに多数の同窓会の善男善女集まる。フィナーレ2曲、「海ゆかば」 ---- そして「また逢う日まで」、その忘れ難い感激と、定められた運命から引返したい未練とを胸に秘めて、帰途、省線四谷見付より御徒町経由帰宅、 ---- 同行者1名。

同 11月21日

工藤張雄先輩と明日の壮行会の答辞の原案を作る。工藤家全員疎開でお留守。夕食はお漬物とご飯。先輩ワカメの味噌汁を作ってくれたが、そのまま煮込んだため、実が1 m位の長さで、お椀の中にトグロを巻いていた。明日の壮行会の記念樹の梅の若木、某所より無断入手。

同 11月22日

附属校庭にて、全生徒による出陣学徒壮行会。抜刀隊の音楽に合わせて、生徒達の肅々たる分列行進閲兵後、小学校代表の送別挨拶、本校出身の学徒兵の卵24名（出席者）を代表し、小生が答辞を述べた。

『可愛い弟達妹達である皆さん、皆さんの小さな体にみなぎった真心一杯の壮行会は、他のどんなご馳走の並べられた壮行会よりも、私達には嬉しいのです。

中 略

10年前、私達はこの附属に誠の鐘を聞きつつ育てられたのです。今日、私達が皆さん方の前に出陣学徒として立ちます時、皆さんの一人一人が、あのなつかしい誠の鐘をつき鳴らして下さるような気がします。それにつきましても、皆さんのような子供から、私たちのような者にまで育て上げて下さった先生方の御恩を身に沁みて感じられます。私達は、この御恩返しの為にも、先生方から教えて頂いた誠の精神を、今皆様方が先生からお教え頂いている誠の精神を、戦場へ持って参ります。では皆さん、戦友として共々に働き、戦い抜きましょう。』

記念写真撮影、記念植樹。（注記 ---- この梅の木は、50年弱を経て今も尚、母校より中学への小道の右側に老古木となり、毎年美しい色香を楽しませてくれている。）

昭和19年1月某日（三笠面会）

東大分隊面会日。末広巖太郎、穂積重遠、二東大教授など多数のご家族などの中に、我が父と母おたまさんの顔が見える。その後ろに、もう縁を切った筈の附属の女性3名。けなげな服装でよりそう。感激であった ---- 。帰団後、美女3名とは多すぎるとの理由で教班長より鉄拳数発 ---- それでもこの日は最高に佳き日であった。

昭和20年4月某日

神風昭和特別攻撃隊の前線（沖縄戦）進出命令下る。その目的を秘めて、小石川竹早町に在住の家族に別離の面会。察知した両親が山下先生と森本彬に連絡、父豊次と3名が、なつかしき附属小学校から東京帝国大学を通り抜け、かつて宗像、岡沢、清水、大森達と送別サイクリングに行った思い出のある上野不忍の池まで、ひそかに今生の別れを告げる小生と共に徒歩にて送ってくれた。この日を最後に、家族、附属の人との縁、全く切れた。



私が初めて同窓会に出席したのは、昭和13年母校を卒業した春であった。会場はその前年新築されたばかりの現校舎の体育館。その時、役員による「オーケストラの少女」のパロディのような演し物があって、その中心で目立って活躍したのが「モリヤヒロシさん」という人であったことが、数十年後の今もはっきり思い出せるほど、印象に残っている。「大和田センセはホタルの子、電球の孫ではあるまいか、それがほんとの証拠には、いつもピカピカ光ってる」という替え歌が面白かったせいかも知れないが。

昭和17年あたり、本校の講堂で同窓会主催の映画会が行われた。当時評判高かった高峰秀子主演の「馬」で満員の盛況、私は立見をした記憶がある。

昭和18年女学校卒業と同時に、同窓会役員を仰せつかったのは、4月の総会の直前であった。S.10卒真山さん演出の劇とS.11卒の大塚さん演出、永野（伊藤）克子さん主演の劇、それにS.10卒山下さん演出、この年新卒の可愛い中学生たちによる人形劇、そして最後に役員総出演のコーラスと、全く手作りの、それだけに熱気あふれたものであった。そして、これが戦前最後の総会となったのである。

間もなく同窓会のヌシとも言うべき卜部先生が軍用トラックの事故によって亡くなられ、9月にはS.7卒榎木先輩を海軍に送り、続いて12月にはほとんどの男性先輩を出陣学徒として戦場に送ることになった。お別れの田園教場へのピクニックの淋しい中にもあった楽しさ、村山スタジオでの壮行音楽会の、最後に全員が起立して「海ゆかば」「また逢う日まで」を合唱したときあふれた涙、生涯忘れることはできない。

そして11月22日、母校校庭での同窓会主催壮行会、その終了後、応接室に役員全員が集まり、歌い、語り、思いの限りを盡くして名残りを惜しみつつ散会、ここに戦前の同窓会公式行事はすべて終わった。その後は出陣して行くひとりひとりの為に、残る者ができる限りの見送りを続け、それが終わった時、同窓会は一時消滅状態となった。

敗戦の翌21年2月、大雪の日に、かつて壮行の宴を張った母校応接室で、役員たちは劇的に再会し、直ちに活動を始めた。

まず敗戦の傷手もまだ生々しい母校生徒たちをなぐさめる為に、人形劇や映画を見せたりした。人形の頭も紙粘土から作り、手縫いの衣装を着せ、台本も自分たちで書き、出演もする。映画も地歴教室の暗幕を利用して、役員が映写機を回すという全く

の手作りであったが、児童たちは喜んだ。

その秋に戦後初めて開いた総会は本校講堂を満員にし、同窓会員は再会を喜び合った。

翌22年6月21日、基金募集の為の音楽会を女高師の講堂で開いた。卒業生の尾高尚忠氏がフルートの森正氏らと室内楽を演奏して下さった。

この秋の総会はやはり本校講堂。この時の劇は、おそらくまだ学生であったS.14卒今村昌平演出、おなじくS.14卒北村和夫主演という演劇史上に残る(!?)ものであった。この時も超満員の大成功であったが、この原動力になったのは、S.14～S.18卒の紅顔の美少年たちであった。

この頃までは先輩たちの指令のもと、学生たちが活躍するという形であったが、時代と共に世相も変わって、それがむずかしくなり、一時沈滞ムードにおちいった時もあったが、多くの、ことに若い人々の熱意と努力が実って、同窓会が再びエネルギーあふれる姿を取り戻して来たことを喜び、ますますの発展を祈りたい。

昭和13年卒

清水愛子

昭和18年、同期の工藤美雪さんと一緒に同窓会役員入りし、終戦迄の事は美雪さんの報告の通り。21年再会後のお話を私の立場から少し補足させて頂きましょう。

私の家が母校に近かった事もあり、殆ど毎日母校通いでした。また、兄（誠 昭10年卒）、弟（久 昭15年卒）も役員だった為か、我が家に常時7～8人の役員が集って戦後の同窓会を如何に立て直すか、口角泡を飛ばし、総会の為の素人芝居の練習に情熱を燃やし、あるいは資金捻出の為のダンス講習会・パーティーの開催等々、同窓会は私達の青春そのものでした。

主人の神戸転勤までの約10年間に兄弟姉妹で9人（中村5人・清水4人）の同窓生一家となりましたので、益々同窓会との絆は深くなり、神戸—東京—北海道—東京—神戸と3年毎に帰郷するたびに口出しをし、50年に東京へ戻ってからは、同窓会に再び本腰を入れるようになりました。

80周年に事業部として大川原氏（昭29年卒）の協力を得、当時の副校長 飯塚先生のご好意で母校体育館を拝借してPTAのバレーボールの面倒を見る様になってから

早や10年。今だに懐かしの母校に通い続けています。

内藤理事長の下、すっかり活気が戻った同窓会。若い人も張り切って仕事をしてくれています。

同窓会の益々の発展を祈ってやみません。

昭和14年卒

中村 倭文子

昭和21年初夏、1年先輩の清水愛子（中村）さんにばったりお会いして誘われたのが、同窓会をお手伝いするきっかけだった。

その年の秋に戦後第1回の総会を開催するからとの事で準備に追われ、大塚和彦氏（S.11卒）演出の「歳月積れり」に出演、娯楽の少なかった時代とはいえ結構楽しんでいただけたのは、何やら知った顔が舞台上に上がって動いているという事ではなかったかと思う。

翌22年の総会には、今村昌平氏（S.14卒）演出、北村和夫氏他S.14～S.18卒の男子多数が出演しての「山の神々」という芝居が上演され、物のなかった時代とはいえ、上衣を裏返しに着るといふ衣装で、ボロボロ集団のような姿だったのを思い出す。又その頃社交ダンスがはやり、体育館で講習会やパーティーが開かれた。

30年の総会の中村久氏（S.15）の紹介で当時のラジオ東京の人気番組「ピヨピヨ大学」の公開録音を本校講堂で開催した。司会は河井坊茶氏、解答者として理事長の早川秋一氏、甥の孝之氏（S.21卒）、母校から植田正次先生とお子様、その他の方々が登場され、この番組は10月8日（土）にラジオで放送された。

この頃、渡辺茂先生のご指導でコーラスの練習もしたように思う。また前田京子先生（上田）（S.12）の御指導のもと、皆様への連絡や宛名書き、名簿作りの準備などしました。

私は家が学校に近いので、遠い所から時間をかけて来て手伝って下さる方々の、その時間のぶんだけ余分にお手伝い出来るかなと思いつつ、年を重ねて来た。代々の理事長・先生方の御協力と後輩の方々が頑張ってお返し下さって、年々同窓会活動を盛んにしていただいている。これからも若い力の御協力を切にお願いしたいと思う。

それは昭和18年にさかのぼる。山下淳ちゃん（S.10卒）に率いられた少年たち（S.16卒）の人形劇団は、総会で「猿蟹合戦」を演じた。おひげの工藤張雄さん（S.7卒）が真山美保さん（S.10卒）たちの家に「父帰る」芝居は印象的だった。工藤さんは直後に出征し、戦争は末期に突入した。

いつか平和の春がやって来て、私たちは青年になっていた。クラス会の仲間がなんとなく附属に集まった訳は分からない。戦後の混乱の中で、ここには懐かしい雰囲気が残っていた。集まればワイワイと動き出すのが私たちのクラス会である。戦中の記憶があったからか、総会で芝居をやるという気分が、自然と盛り上がった。まるで学校に通うように毎週人数がそろった。

一つ取っておきの話がある。「弁天小僧」を演じようと立ちげいこまで進んだのに、最後の段階で衣装が借りられないことが分かり、上演中止になった（中年になってのクラス会で、あの時演っておけばよかったなあ、と嘆いたものだ）。

「アッシジの聖フランチェスコ」の劇、「青い鳥」の人形劇もした。下級生を率いてお伽芝居を上せたこともある。脚本、衣装その他もみな自作であった（昭和14年卒の今村昌平、北村和夫のように本物になった者はいない。要するに素人芝居に満足しただけだ）。

総会だけではない。野球の試合もやった。石神井に遠足にも行った。卒業後まで、こんなに一緒に活動したクラスも珍しいかも知れない。やがて社会人、忙しくなったのですべては立ち消えになり、今は隔年にクラス会で集まるだけである。

私の記憶では、同窓会の仕事が終わ戦後再会した頃から昭和26年頃まで、多少お手伝いした事があります。同期では大森厚子さん、幸田成夫君などが一緒に、後輩では菅谷和子さんなどが一緒でした。

何年かは確かではありませんが、その頃社交ダンスがはやったこともあって、あの体育館で何回か講習会をやり、一度はダンスパーティーを開催したものです。

昭和18年卒

近藤 洋 一

“たけとは会”と言う判じ物のような級会の名前から、すぐ思い出す昭和18年の卒業。すぐ同窓会の委員の中から学徒出陣の人達を送って、やがて、忘れられない焼跡の死臭、そして敗戦後の再会。平和の喜びのほとぼしりだったような同窓会の素人芝居に、真山美保、北村和夫先輩が加わっていたという、研究室の誰もが目を廻す。魚住純子さんという人も、その後映画女優になったのではなかったか。

附属の同窓会と言うとすぐ思い出すのは、素人芝居の記憶とダブって、中村、工藤など大幹部のお姉様、お兄様方の名前はもちろん、清水民雄、杉本敏夫、本多洋子などなど。

そこから何組かの同窓会カップルが生まれ、私にとっては敗戦後の混乱の象徴のような学生生活の中で、次第に同窓会も遠くなり、いや、おそらく意識的に避けようとして、今井大先輩あたりがヤキモキする中、事実上中絶状態にしてしまった責任は私あたりにあったように思う。

一昨日までベルリンにいて、音を立ててくずれて行く壁を目の前にし、去年来た時は予想だにできなかった新しい世界の到来に、それなりに戦後を背負って来た我々の世代が、次の世代に何を言うべきか、複雑な思いがかけめぐる。(アムステルダムにて)

昭和18年卒

渡 辺 鴻

卒業したその年、同窓会の総会に人形劇をするということで、初めて山下淳氏(S.10卒)にお目にかかりました。小柄ながら色白で日本人ばなれしたご容姿、つねに微笑をたたえられ、当時の言葉でいう軽薄才子、遊びの指導者として実に頼もしい先輩に見えました。上演したのはギニョールの猿蟹合戦、ガリ版刷りの台本をわたされ、演出とは舞台に出ないで役者を踊らせるものだということを初めて知りました。氏自身は舞台の上手でピアノを奏でられ、ストーリーを主導されました。当時は男がピアノをひくなど軟弱のかぎりのようにいわれており、また自分には姉妹がなかった

ことから、ただ珍しく面白くどしか言いようがありませんでした。戦後丸山町の父君の小児科医院、ペンキのはげた雀のお宿のような洋館に氏の表札をみ、当時のお姿を思い出しました。氏自身、教職に付かれた御様子、進学指導のことで新聞紙上に書かれたのをみた記憶があります。序曲は「春が来た」の前奏で始まり、主役の猿が、“花が咲く花が咲く”とうかれて登場、終曲は猿が改心して「お山のお猿」を踊った後、ハイケンスのセレナーデが流れました。これは当時学校放送のテーマミュージックで、明るく上品な、また何か寂しいイメージを伝えていました。皆、知っての上で、しかも必死で、あの他愛なさをつくり支えていたのだと思います。指導された各位、学徒出陣を前にして、それなりの自らへの鎮魂歌だったのでしょうか。風とともに一瞬のうちに去った幻の日がしのばれます。50年近い時が去ろうとしています。

昭和21年卒

小山豊子

第1回目の幹事学年を仰せ付かったのが、私共昭和21年卒、及び2年下の23年卒です。

○ 昭和48年総会

日時 11月15日(土)  
会場 母校体育館  
会費 一般 2,000円  
大学生 1,500円  
中・高生 1,000円  
(他に年会費 500円)

プログラム

1. 同窓会総会
2. 懇親パーティー(間に先生方のお話)
3. 福引き
  - 軽食(おべんとう・飲物・袋詰菓子)
  - 形式 着席式

幹事 S.21卒 伊吹山、高木、筆谷、宗、小山、引田、和田  
S.23卒 北田、加藤、三橋、大川

昭和22年卒  
32年卒

永山道子  
阿部理子

○ 昭和49年総会

会場 母校体育館

年代別にテーブルをつくり、出席者に一人前ずつのお弁当、菓子、ジュースをお配りしました。出欠が最後まではっきりせず困りました。会場の飾りつけの材料を、浅草橋の間屋まで取りに行き袋一杯かついで来たりしました。

幹事 S.22卒 小野成之、金井崇、永山道子 他  
S.32卒 木戸俊雄、鈴木了衣、阿部理子 他

○ 昭和50年総会

会場 母校体育館

幹事 S.23卒 加藤、北田、大川、三橋

昭和24年卒

清水欣子  
神宮八重子

○ 昭和51年総会

会場 母校体育館

- ・ (S.34)山本忠史氏紹介のTBS「中年の同窓会」インタビューの放送
- ・ テーブルにおつまみ。カツサンド、袋詰菓子などを一人前ずつお渡しした。
- ・ 先生方に卓上を飾ったベコニアの鉢を思い出にお持ち帰りいただいた。

昭和25年卒

永野美恵子

○ 昭和52年総会

会場 母校体育館

- ・ 業者による模擬店を出し、出席者に食券をお渡しした。マイクを持って席をまわり、年配の方にも、なつかしい唱歌などを歌っていただき好評であった。福引の景品を前日おそくまでかかって包装し、運び込んだりした。60,000円ほど黒字となった筈。S.35年卒の方々が、会場設営、受付などを手伝って下さった。

○ 昭和53年総会

会 場 上野「東天紅」

アトラクションに湯島天神太鼓を招いた。

幹 事 S.26年卒 松林忠利、小島久美、黒須英子  
S.36年卒の方々の御協力をいただいた。

○ 昭和54年総会

会 場 母校体育館

講 演 プロ野球監督 大沢氏

幹 事 S.27卒 金子、山内

○ 昭和55年総会

会 場 全林野会館

幹 事 S.28卒 宇津、立花、馬越、樋田、山元、小林、岡本、高橋、山本、  
加藤、山田

○ 昭和57年総会

例年総会の出席者が余り多くなく、同窓会費も少ししか集まらず資金不足と  
のことから、今年の総会は見合わせ、1年おきに開催した方が出席者が増える  
のではないかという意見が出ました。同期会員にその旨をアンケートにして  
計った結果、大多数が各年の方がいいということでした。理事会に提出したと  
ころ、ご年配の卒業生は毎年楽しみにしていच्छるとの意見が多く、改め  
て毎年総会を開催することに決定しました。

開催に反対だった者が多く居た為、10人余りの同期と私が中心になって準備  
を始めました。S.29卒の大川原さんがたいへん心配して下さり、会場決定から  
当日の企画に至るまで、私共の集まりに出席して下さり、あたたかいアドバイ  
スを沢山いただきました。当日の先輩理事の皆様の励ましやお心遣いは勿論の  
こと、前日の12時近くまで、何人かの方々から、出席人数のことを心配してお  
電話をいただいたことは、はっきり覚えています。



昭和32年卒

鈴木了衣

○ 昭和59年総会

しばらくぶりに、母校の体育館で総会を開くことに衆議一決した私達は、本番目指して見事なチームプレーを発揮したのです。料理や景品の用意、当日の会場の設営等、大変な仕事でしたが、幸い多数の方が手伝いに参加して下さい、すっかり小学校時代にもどって、和気あいあいと準備を進めることができました

会場が足りない分、お料理にまわせたので、皆さんにも満足していただけたと思います。ことに手作りのおでんや焼鳥を、お席まで運んでさし上げたりしたことは、大先輩の方々に好評でした。後日お礼状をいただいて、苦勞が報われた思いがしました。

この当番を機に、これまでクラス会の開かれたことのなかった2組でも、その後度々旧交を温めるようになりました。この当番年度というやり方は、とても良い方法だと思います。

昭和34年卒

川田慶子

○ 昭和61年度総会

私達は昨年、卒業30周年を迎えて居ります。最近12年ほど細々ながら高山さんと二人でお手伝いして居ります。

3年前には、私達も40才の中年の仲間入りをし、総会の幹事となりました。音楽評論家として広く活躍される樋口隆一さんの尽力で、バリオホールにて演奏会付きの同窓会を開くことができました。樋口、安田、山本、望月、居原田、箱崎、横山、朝倉さんを中心に、沢山の方々が準備のため夜昼なく集まりました。

## 同窓会の記録

注( )内 { 先生(御在職期間)  
(卒業年度)同窓生氏名(旧姓)

M.33	開 校 式	西暦1900年11月7日、東京府女子師範附属小学校、この日を開校記念日とする。	
M.41	同 窓 会 組 織	設立年月日は不明 会務、野尻てつ先生 (M.33.3~T.14) 三宅志づ先生 (M.36.9~T.12.4) 男女別で、人数の多い女子部には規定会費制あり。	S.15年 竹早学報 卜部先生 記事より
M.44	日田権一先生	第二代主事 (M.44.5~T.7.5)種々の改正に盡力、会の基礎を作られた。 会長・副会長、これまでは主事先生が会長であったが、本校校長 鈴木光愛先生を会長に戴き、主事先生は副会長となる。 会費の減額、当時の社会情勢からみて従来の半額とする。 同窓会会報の創刊	
T.2	総 会 卜部たみ先生	第一回同窓会、校庭にての記念集合写真を (M.43) 桜井房様寄贈 学校にあり (T.2.4~S.7.3) 卒業生でもある (M.41) 卜部たみ (渡辺) 先生は校務の傍ら同窓会委員となり、以降S.18年まで会の為に盡力された。	
T.11	組 織	第四代主事 苦瓜恵三郎先生 (T.11.4~T.15.3) の時に男女合併 男子側より意見が出て全体を理事制度に改めた。	
T.15	初 代 理 事 長 木下一雄先生	(M.42) 飯田正操、従来の校長、主事先生は顧問となる。 第五代主事 (T.15.3~T.4.5) 同窓会顧問、「誠の人間教育」をかかげ同窓会活動も熱心になされた。	
S.3	総 会 報	この頃の会場は主に本校講堂。14、15年頃に体操場も使用か。 編集 (T.8) 伊藤祐基 (T.8 高) 石黒ミナ、印刷、比護印刷所。	石 黒 加 納 今 井
S.4 頃	総 会	東大附属植物園構内で在校生もまじえて行なった。 S.5 頃秋、豊島園は雨で流会	
S.5、6 頃	総 会	於本校講堂 (T.10) 佐藤初枝 (遠藤)、(T.11) 山田康子 (川崎)、(T.13) 有井清子 (佐野)、東京音楽学校生トリオが出演、幹事 (T.12) 衛藤行孝 他	有 井
S.6	二 代 理 事 長 機 構	(M.40) 杉浦鉄若、推されて理事長となる。拓務省勤務。 茗荷谷の私塾「称好塾」塾長 杉浦重剛先生長男 これまで本校校長が勤められた会長を主事先生にお願いし、職員側からも理事に参加し、小学校の同窓会として一層の緊密を計りたいという意見が、母校、同窓会双方からおこる。よって以降会長は第六代主事 山本 猛 先生 (S.4.6~S.6.11)、第七代主事 野間忠雄先生 (S.6.11~S.11.1)、第八代主事 小川英男先生 (S.11.1~S.14.9) と引き継がれた。会計主任 卜部先生、編集主任 (T.12) 柴山千鶴子 (永堀) 当時の卒業時納入の会費は一般4円、特別50銭 (教職員退職餞別引当て) 計4円50銭であった。	卜部先生  今 井
	会 報	(T.8) 伊藤記として (T.14高) 稲田巨万子 (早川) 先生 (S.6.4~S.13.8)、(S.2) 今井繁雄、両名理事となるとあり。	

S.6,7頃	名簿①	横版、表紙、淡いグリーン、編集 稲田先生（後記あり）(T.12)衛藤行孝、柴山、印刷は学校で会報などの印刷を依頼していた関係で浦和印刷所、校正は学校の外、自宅に送ってもらって何度も行なった。実物がありません。	衛藤夫人 柴山
	当時の様子 (S.10頃まで)	名簿は授業、校務の合間に学籍簿を出して調べながら作成したので最初の発行と思われる。同窓会委員会もあまり組織化されてなく、夕方からの寄り集りのようなものであった。会合に使われた図書室の一隅に同窓会用資料置場があり、プリントなど何でも一部ずつは必ず残して置いた。	稲田先生
S.7	三代理事長	稲田先生も卒業生、学校側理事、双方の立場で会の為、盡力された。 (M.40)早川秋一、前任 杉浦理事長はアルゼンチン赴任の為、退任され、同級生として引き継ぐ。以降、母校所在地の小石川区長も歴任されてS.50年までの長期にわたり務められた。例年3月の新入会員歓迎会でのM.40年卒業のクラス会名、担任四先生の頭文字をつなげた「あさのみ会」のお話を聞かれた方も多いのでは、	
S.8	活動した人々	大正時代より (T.6)西村勝(乙部)、(T.8)伊藤祐基、(T.9)安永満男、(T.12)衛藤行孝、柴山千鶴子(永堀)やや後年より (T.6)田澤龍吉	
	会報	「先輩、後輩、同輩」の欄には稲田先生(早川)今井繁雄が新理事として紹介されている。この頃の会報発行は毎年ではなかった。	
	新人女学生	会報の他、名簿、総会開催通知の発送は委員が夜までやることもあったが、結構たのしくやっていた。	加納
	総会	この頃卒業したての各学年女子が(短期間の人もあり)同窓会活動に加わった。 (S.4)永添美津子(免取)、(S.5)衛藤泰子(近藤)、外口綾子(佐野)、(S.6)川又親恵、関とも(宇佐見)、坂田美紀子(加藤慎子)、(S.8)大津清子(永野)、斉藤俊子(加藤) 新卒業生の活動参加は男子も加えてS.21年まで続いた。	
S.9,10頃	総会	内容が理事長の話、会計報告などであまり面白くなく出席者(100名位か)は新卒の中学生が多く騒がしかった為、早川理事長は、目にてたしなめられたことあり。会場は本校講堂の他、軍人会館(現九段会館)、茗溪会館などS.16年頃まで続いた。	工藤
	活動した人々	前出、大正年代の人々に加えて (S.2)今井、山本正躬、(S.3)藤原千尋、(S.4)森博、斉藤正弘、坂田昕生、菊岡貞子(永堀)、(S.5)守屋弘、高味寿雄、(S.6)加納晋六、(S.7)遠藤寛、榎木寛方、馬場義文、工藤張雄、(S.9)四谷桂子、(S.10)永野健、山下淳、真山美保 他	
S.12	事業	同窓会を更に活発に、統一のとれたものしようという動きが始まる。 於軍人会館、ジャズピアノ 和田肇、映画「オーケストラの少女」、大盛会でその利益で母校に校旗を贈呈した。	馬場
S.13	総会	4月 於前年新築された現校舎体育館 アトラクション、当時の映画「オーケストラの少女」をもじった冗談音楽的なもの。守屋、関 他。とび入りの踊り工藤など。	

S.15	会 長	第九代主事 時下米太郎先生 (S.14.9~S.22.8) 以降歴代主事 校長先生が引き継がれる。学校側理事 山本磐、中野藤太、大森與吉、久世清、安藤寿美江 各先生	
S.15頃	会 報	(M.33)宮崎曉子(北小路)＝歌人 柳原白蓮女史の原稿をいただき、裏表紙に制服指定店のナポリヤの広告をとる。編集 坂田(加藤)、馬場 他	馬 場
S.16	総 会	4月26日(土)収入 140円ほど。(S.6)加納、堀内、他にて通知発送 この頃より戦時色体制濃厚となる。	関
	名 簿 ②	横版にたて書き、表紙無地(質素なもの) <u>関・渡辺宅にあり。理事・委員、名簿作製者名コピー</u>	
S.17	壮 行 会	1月17日(土)於附属小学校 (S.3)藤原、(S.6)小立、(S.7)馬場、20日に海軍入隊の為	
	映 画 会	於本校講堂、東宝映画「馬」監督 山本嘉次郎、主演 高峰秀子を上映 満員の盛況であった。	
	役 員 改 選	機構を固める。	
S.18	校 名 改 称	東京第一師範学校女子部附属国民学校となる。	
	総 会	4日 於本校講堂 出席者約 800名で盛大であった。 幹事長 (S.3)藤原、副幹事長、(S.7)榎木、工藤 他 アトラクション、新卒業生らの人形劇「サルカニ合戦」(S.10)山下指導 (S.17)荻昌幸、(S.18)近藤洋一、渡辺鴻 ほか 幹事の劇「父帰る」 (S.10)真山作、演出、主演 ” 「麦ふみ」 (S.4)大塚和彦演出、(S.11)永野克子(伊藤) 幹事のコーラスなど 本校作法室にて打ち上げ会、 <u>写真あり</u> 工藤	
	音 楽 会	5月26日(水)於四谷の村山スタジオ、同窓会主催 (S.7)安永庸子ピアノ独奏会	関
	ハ イ キ ン グ	9月24日(祭日)上石神井の田園教場へ行く。同窓会有志約20名と小池秀一先生。	
	音 楽 会	10月30日(土)於村山スタジオ、出席者30名位の小規模なもの 終りに全員で「海ゆかば」「神ともにいまして」合唱 この頃の催し物は出陣学徒を送るためのものであり、S.19年まで、東京駅、品川駅などへの見送りが続いた。	
	学徒出陣壮行会	11月 於母校校庭及び応接室 同窓会だより⑧ S.63年9月発行に記事 <u>写真あり</u>	
	(注) 活動した人々	9月22日学徒動員令発令、10月21日神宮外苑にて壮行会、12月1日学徒出陣前出陣和初期の人々に加えて戦中、(S.8)内藤祐次、大村武佑、宇佐見徳衛、(S.9)遠藤ゆり香(馬場)、(S.11)藤原健、吉庄悦子(宗像)、(S.13)清水一雄、清水愛子(中村)、工藤美雪(吉田)、(S.14)島田一子(倉林)、榎木修、志水楠男、大森義宏、池永久 ほか	関
	会 報	4ページのものが発行された。	

S.18	学 校 側	6月 ト部先生逝去 (T.12 高) 安藤寿美江先生 (S.13.9~S.31.8) 担当理事となる。 戦中戦後の乏しい時期にも同窓会を大切にされ、S.30年には出来たてのプールで放課後同窓生を泳がせてくださった。	前田先生
S.20	学 童 疎 開	S.20年卒は、戦争末期、最年長学年の生徒として宮城県中新田に集団疎開、3月卒業の為、帰京したが卒業式は行なわれなかった。例年の同窓会新入会員歓迎会もなかった。	川 田
S.21	戦 時 終 了 戦 後 復 活	8月15日 終戦 2月大雪の日、戦後第一回集会、於附属小応接室、出席者 馬場、樫木、山下 他、出席者は20名位か。	
	活動した人々	(S.10)中村誠、山下淳、(S.11)藤原健、(S.13)清水一雄、工藤美雪(吉田)、清水愛子(中村)、(S.14)宇佐見邦輔、中村俊文子(依田)、吉川凱江(木村)、(S.15)中村久、馬場義武、(S.16)杉本敏夫、幸田成夫、岡本和夫、坂入弘一、清水民雄、近藤悠二、泉良子(柏木)、(S.17)榎幸雄、福本順一、(S.18)近藤洋一 ほか。	
	母校での活動	幼稚園で手作りの指人形で人形劇、浦島太郎などを見せる。(S.10)山下指導 小学校郷土室で児童に8ミリ映画を見せる。 (S.10)中村誠、(S.13)清水一雄、4、5、6年生のバスケット部を指導。小学校運動場で行なわれた都大会で一勝する。	
	総 会	秋、於本校講堂 終戦第一回開催 アトラクション・劇「歲月積れり」(S.11)大塚和彦演出、清水(一)、工藤、中村、近藤 他幹事 <u>舞台写真、打ち上げ会の写真あり(中村宅)</u> 日舞(S.13)糸賀不胤子(ふゆこ) 人形劇「三匹の熊」三宅二三四先生指導(S.21)伊吹山千晴、高木正弘、魚住純子 他新卒業生	
S.22	校 名 改 称 音 楽 会	東京第一師範学校女子部附属小学校となる。 6月21日(土) 於女高師講堂(現お茶の水女子大) 東京第一師範女子部附属小学校同窓会、基金募集臨時総会、会員券15円 (T.13)尾高尚忠出演、室内楽、独唱など <u>プログラムあり</u>	今 井
	総 会	秋 於本校講堂 劇「山の神々」(S.14)今村昌平演出、(S.14)北村和夫主演	
	会 報	この年? 4ページ程度のもの発行	
S.23	ダンスパーティー	体育館で社交ダンス講習会、ダンスパーティーも開催された。	坂 入
S.24	校 名 改 称	東京学芸大学附属竹早小学校となる。	
S.30	総 会	秋 於本校講堂、ラジオ東京公開番組、ピョピョ大学録音 解答者 早川理事長、(S.21)早川孝之、植田正次先生 他、10月8日放送	中 村
S.31	学 校 側	安藤先生に引続き卒業生でもある三先生方も在職中理事として務められた。 (S.12 高) 前田京子(上田)先生 (S.18.4~S.50.3) (S.14 高) 高杉自子(赤須)先生 (S.22~S.39) (S.15 高) 角尾和子(谷口)先生 (S.26~S.47)	

S. 34頃		総会通知宛名書きは、人手不足の為、前田先生が担任された6年生 (S. 35年卒の人達) に頼んで手伝ってもらった。	
S. 35	名簿 ③	昭和35年版 縦書き、表紙、藤色 233頁、一色印刷所、35.9.30 発行 母校60周年と共に20年ぶりに発行。名簿委員長 工藤張雄、前田京子、理事 (M. 44) 税所、(T. 6) 田澤、(S. 2) 今井、(S. 4) 森、(S. 7) 小畑、榎木、亀井、工藤、馬場、(S. 8) 内藤、(S. 10) 中村、(S. 12) 前田、(S. 13) 工藤、(S. 14) 宇佐見、高杉、中村、吉川、(S. 15) 角尾、中村、(S. 17) 梶、(S. 19) 千葉 監事 (T. 12) 安藤、(S. 13) 清水	
S. 36	音楽 総会	創立60周年記念 於文京公会堂、PTAと共催 井口基成ピアノ演奏会 於母校体育館 暫くの間事務的な総会が続いていたが、前田先生担任のS. 29年卒の浪人生、大学生が企画し、若い同窓生中心の会をひらき盛り上げた。幹事 (S. 29) 大川原正昭、小寺且訓、(S. 30) 松林忠克、(S. 29) 鈴木加奈子とヘッドカムカムバンド出演	今井
S. 37	総会	以降大学3年生が中心となり、出席者の殆どの中学生むけのだし物を考えた。主に体育館を使用、運動場でフォークダンスなど、種々な企画に学校側規則との調整もあった。	前田先生
S. 46	名簿 ④	昭和46年 (1971年) 版 横版、表紙 光沢あるブルー 前田先生が中心となり、今井・工藤先輩、当時子供が在校生であった卒業生10数名などが集って作った。	
	年次委員	この名簿作製時の各学年の主な協力者があらたに年次委員となり、以降毎年の総会通知発送、6年毎の名簿発行などクラスのまとめ、連絡で同窓会活動を支える。	
	年次委員総会	於小講堂 懇親の後、若い世代の委員から体制批判が長々と続き、前田先生が、漸く取捨された。時代の反映か。以後、毎年9月頃、小講堂、リズム室などで行われた同窓会総会通知発送依頼の集会 (50名位出席) の折を年次委員総会とした。S. 61年まで、この形式が続く。	
S. 47	校名改称	東京学芸大学教育学部附属竹早小学校となる。	
S. 48	総会	11月15日 (土) 於体育館 担当S. 21年卒、協力S. 23年卒 会費 2,000 維持費 500 軽食、福引あり	小山
S. 49	総会	6月15日 於体育館S. 22年卒担当、この年より総会は当番制となり、10年下の学年と組む。S. 32年が協力した。年代別にテーブルをつくり一人前づつのお弁当、菓子、ジュースを渡した。	永山
S. 50	四代理事長	(S. 2) 今井繁雄、S. 21年から会計担当であった。 1月27日早川理事長80歳にて逝去。2月24日追悼式の後理事会にて決める。	
	学校側	前田教頭先生が退職され、4月より菊池正子先生 (S. 26.5~ ) 担当、理事を務められる。以降の副校長比護繁先生 (S. 50~54)、飯塚徹也先生 (S. 55~59)、関貞雄先生 (S. 60~62)、柳辰男先生 (S. 63~ ) 理事を引継がれる。	

S.50	総 維 持 費	会 費	秋 於体育館 担当S.23年卒 この年よりS.55年まで 500円	
S.51	会 計 総	計 会	4月より(S.14)中村倭文子担当 秋 於体育館 担当S.24年卒 協力S.34年卒 TBS「中年の同窓会」としてインタビューあり。 先生方に卓上を飾ったベコニアを思い出に差し上げる。	清 水
S.52	名 簿 総	⑤ 会	昭和52年版 B5版 表紙黄色 秋 於体育館 担当S.25年卒 協力S.35年卒 マイクを持って席をまわりなつかしい唱歌をうたう。福引景品集めに力を いれた。模擬店あり	永 野
S.53	総 会	会	秋 於東天紅 担当S.26年卒 協力S.36年卒 アトラクションに湯島天神太鼓	黒 須
S.54	総 会	会	11月17日 於体育館 担当S.27年卒 この年より単独学年で担当 講演 プロ野球監督 大沢氏	
S.55	創 立 8 0 周 年		記念品印鑑セットを作り、現職員、旧職員、在校生、関係者などに配る。 募金一口 3,000円以上	
S.56	総 総 同窓会だより①	会 会	秋 於全林野会館 担当S.28年卒 10月31日(土) 於体育館 担当S.29年卒 大川原正昭(S.29)編集 No.1 発行される。総会通知と一緒に全員に配布、以 降毎年発行	同窓会だより ①
	維 持 費 組 織 化		1,000円となる。 会長山口校長、顧問2名。理事長、副理事長2名、学校側理事2名、総務部 16名、事業部15名、名簿部16名、監事2名 同窓会だより No.1 参照	
S.57	総 会	会	10月13日(土) 於新宿銀座アスター 担当S.30年卒 出席人員を多くするため、隔年案出る。輪投げゲームなどに全員参加。	同窓会だより ②
S.58	総 会	会	11月5日(土) 於如水会館 担当S.31年卒 タレントの歌あり。	同窓会だより ③
S.59	名 簿 ⑥ 同 窓 会	⑥ 会	昭和58年版 B5版 表紙濃茶 ¥2,000 送とも 2,300 11月10日(土) 於体育館 担当S.32年卒 手作りおでん、焼鳥の接待、集会室に各年代の卒業アルバム、成績表、 「竹早学報」「竹早」など展示する。(学校より提供)	同窓会だより ④
S.60	同 窓 会	会	11月9日(土) 於市ヶ谷自動車会館 担当S.33年卒 出席された現職員(先生方)の紹介あり。 この年より同窓会だより編集を担当学年幹事が行なう。	同窓会だより ⑤
S.61	同 窓 会	会	11月8日(土) 於本郷アビラックミュージックコミュニティセンター 担当 S.34年卒 (S.36)渡辺康雄、(S.38)渡辺規久雄兄弟ピアノ演奏会	同窓会だより ⑥
S.62	五 代 理 事 長 年 次 委 員 総 会		(S.38)内藤祐次就任 前理事長 今井繁雄、名誉顧問となる。 5月16日 於文京スポーツセンター 年次委員の一層の親睦を計る。	

S.62	年会費 同窓会	これまでの維持費を年会費とし、「運営費として納入する」規約出来る。 11月8日(日) 芝弥生会館 担当S.35年卒 年会費(1,000)の納入が例年の4倍強となったのは、同窓会だより⑦が画期的増ページ編集の為と思われる。 (編集に盡力されたのはS.46年小講堂年次委員会で熱弁をふるった方でした)	同窓会だより ⑦
S.63	年次委員総会 同窓会	6月4日 於文京スポーツセンター 11月5日(土) 於茗溪会館 担当S.36年卒 母校の様子をビデオ製作、上映される。	同窓会だより ⑧
H.1	年次委員総会 同窓会	5月 於文京スポーツセンター 11月11日(土) 於日本青年館 担当S.37年卒 この年より三年間竹早、追分 合同の為4組あり 母校スライド上映 出席の(M.43)大先輩3名に花束贈呈。ビンゴゲーム(特賞グァム島旅行) 同窓会だより編集の幹事負担が多い為、⑨より事業部を中心とし年度幹事 との協同作業とする。	同窓会だより ⑨
	名簿 ⑦	平成元年版 B5版 表紙ピンク ¥3,000 送とも 3,500 今回よりコンピューター化、これまで理事、年次委員によった会員への種々の 通知発送は業者依頼となる。	
H.2	年次委員総会 創立90周年 総会	5月19日 於文京スポーツセンター 記念品 学校へ20分の1の校舎模型寄贈、旧・現職員、在校生、関係者へ電 子手帳を配る。 寄付金一口 3,000円以上 10月20日 於母校 担当S.38年卒	同窓会だより ⑩



あ と が き

今年卒寿を迎えた母校とともにある同窓会。初代理事長はどなたかしら？ から始まった一綴りの資料です。

原稿は、T 6 年卒～S 38 年卒（今年度総会担当）の約 50 名の方に依頼致しました。3 月～6 月末締切で寄せられものから、同窓会に関するところを抜き書きさせていただきました（一部電話で伺ったところもあります）。

既に故人となられた方もあり、資料も少ない状態で、今井繁雄氏はじめ多くの方々の記憶力に頼りながら一応まとめてみましたが、情報量によって記録に片寄りが出て居ります。特に活動されたのにお名前の出ていない方、不備の記事などございましたら、是非ご指摘下さい。充実した 竹早同窓会のあゆみ 百年 につなげて行く為の第一歩になればと思います。

直接原稿を、また先々まで調べて情報や資料をご提供下さいました方々の、さまざまの御協力を厚く御礼を申し上げます。

平成 2 年 10 月

東京学芸大学附属竹早小学校同窓会 理事会

担当 (S. 13) 工藤 (S. 18) 入沢